

公立文化ホールにおけるコモンスペースの利用実態に関する研究
—三重県総合文化センターを事例として—

A study on performing condition of common space at public culture halls
-A case study on Mie Center for the Arts-

5.建築計画-2.施設計画

公立文化ホール コモンスペース ホワイエ
アンケート マッピング 環境行動

正会員 ○小塚 智世*
同 加藤 彰一**
同 大月 淳***

KOZUKA Tomoyo
KATO Akikazu
OTSUKI Atsushi

Abstract

This study focuses on new features of lobby area, or common spaces at theater through the analysis of audience behaviors and consciousness, during the performance in case study of Mie Center for the Arts.

1. 研究の背景・目的

様々な公立文化ホール¹⁾の計画に伴い、コモンスペース²⁾(以下、CS)における利用者の滞在行動は多様化している。また、公演時外のCSの有効利用が求められており、鑑賞者、活動者、双方の立場にたった公立文化ホールの環境を構築する必要があると考えられる。

本研究では、前者について扱い、鑑賞者のCSの利用実態と利用意識を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

2-1. 調査対象施設の概要

三重県総合文化センターは、文化会館、生涯学習センター、男女共同参画センター、県立図書館によって構成される複合施設である。概要について、表1に示す。

2-2. 調査方法

対象は、三重県総合文化センター大ホールのCSであり、三重大学管弦楽団の定期演奏会(以下、公演1)とサマーコンサート(以下、公演2)時である。CSは、ホワイエと屋外テラスであり、ホワイエは床レベル差でゾーンA、ゾーンBに大別される(図1)。両公演を通じて、アンケート調査、公演2でマッピング調査を行った。アンケート調査の概要について、表2に示す。内容は、鑑賞者の属性、公演前後と休憩時間の過ごし方、CSにおける満足度についてである。マッピング調査は、1セット15分間として、公演前2回(以下、公演前I、公演前II)、休憩時間1回、公演後1回行い、鑑賞者の属性、滞在行為、滞在位置、行為に影響を及ぼす物的要素について、記録した。

2-3. 分析方法

鑑賞者の属性、公演前後と休憩時間の過ごし方、CS

における満足度の相関を分析し、滞行為やCSにおける満足度に影響を与える要素を抽出する。

表1 調査対象施設の概要

建築概要	三重県総合文化センター
所在地	三重県津市一身田上津部田1234
設計	株式会社A&T建築研究所 三重県総務部管財室建築課
規模	敷地面積 62,224㎡ 建築面積 21,692㎡ 延床面積 46,305㎡ うち文化会館 29,415㎡
文化会館 ホール	大ホール 1903席 中ホール 968席 小ホール 約300席(原状285席 最大322席)

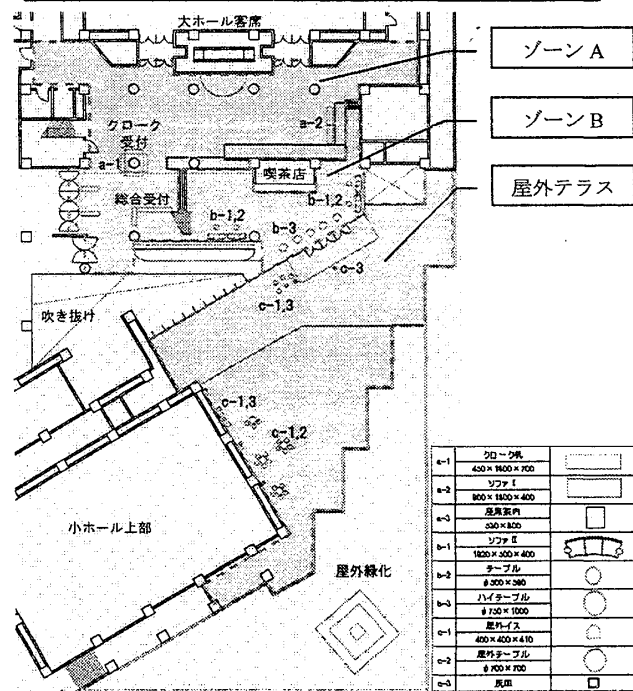


図1 調査対象範囲と付属的要素の位置

表2 アンケート調査の概要

	公演1:定期演奏会	公演2:サマーコンサート
調査日	2009年1月25日 14:00開場 14:30開演	2010年7月17日 14:00開場 14:30開演
入場者数	1075	782
配布数	1000	782
回収数	166	112
回答率	16.60%	14.32%

*三重大学大学院工学研究科 博士前期課程
**三重大学大学院工学研究科 教授・工博
*** 三重大学大学院工学研究科 准教授・工博

*Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
** Prof, Graduate School of Engineering, Mie Univ.,Dr Eng.
*** Assoc. Prof., Graduate School of Engineering, Mie Univ.,Dr.Eng.

3. 分析結果

3-1. 属性について

鑑賞者の属性について、表3に示す。性別は、両公演を通じて男女比率に偏りは無い。年齢層は10~20代の学生と40~60代の比率が高い。大学関係者は公演1で26%、公演2で38%である。来館人数は70%以上が2人以上である。友人と来ている比率が40%以上、次いで夫婦、子ども、親など家族で来ている人が多い。居住地は、両公演を通じて津市内が50%以上であり、75%以上が県内である。来館手段は、立地上の問題にもより、車による来館が最も多い。来館頻度は、公演時が初来館であった比率は、公演1では8%、公演2では15%であり、年間で管弦楽団の両公演を鑑賞する鑑賞者がいる影響と予測される。鑑賞者のうち30%程度は、日常的な文化会館の活動者、もしくは他の公演も鑑賞するリピーターである。

3-2. 過ごし方について

公演前の来館時間は、公演1では72%、公演2では62%の鑑賞者が開場時間より前である。比率の差は、入場者数が異なるため、座席確保や、開場までの待ち時間に余裕をもった鑑賞者が公演1に多かったと予測する(図2)。公演前のCS内行為は15行為確認でき、公演1では多い順に、パンフレット確認60%、会話21%、座席確保8%である。公演2では多い順に、パンフレット確認22%、会話15%、読書9%である。両公演を通じて、パンフレット確認をして公演を鑑賞する比率が高いことが分かる(図3)。ホール内の行為は、パンフレット確認、会話、座席確保、アンケート回答の順で多い。ホワイエ内の行為で、ホール内では見られない行為は、飲食、クロック利用、待機、ゲームである(図4)。公演前の場所選択は、両公演を通じて、ホール内の座席が60%前後であり、座席確保の理由の他に、パンフレット確認は着座の姿勢が望まれることが影響しているとも考えられる(図5)。センター内の他施設では、カフェ、レストランでの飲食、図書館での読書などの過ごし方がある。(図6)。

休憩時間のホール内の行為はパンフレット確認、会話、アンケート回答の比率が高く、他読書などがある。ホワイエ内は両公演を通じて30%前後が会話であり、公演1では飲食の比率が高い。また、携帯電話使用が特徴として挙げられる(図7)。休憩時間の場所選択では、両公演を通じてホール内に留まるとした回答者が70%を超え、休憩時間にはホール外へ移動しない傾向にある(図8)。

公演後の場所選択は、両公演を通じて約半分の鑑賞者が「直帰する」と回答している(図9)。団員が出入りを誘導している点、団員が搬出作業に取り掛かる点により、公演後15分間で大半がホワイエを出ることとなる。

表3 鑑賞者の属性

属性	公演1(n=166)	公演2(n=112)
性別	男性:70(42%) / 女性:89(54%) / 未回答:7(4%)	男性:54(48%) / 女性:55(49%) / 未回答:3(3%)
年齢	10歳未満:2(1%) / 10代:8(5%) / 20代:31(19%) / 30代:12(7%) / 40代:27(16%) / 50代:37(22%) / 60代:23(14%) / 70代:16(10%) / 80代:2(1%) / 未回答:8(5%)	10歳未満:0(0%) / 10代:30(27%) / 20代:11(10%) / 30代:10(9%) / 40代:11(10%) / 50代:18(16%) / 60代:17(15%) / 70代:8(7%) / 80代:3(3%) / 未回答:4(4%)
大学関係者	はい:43(26%) / いいえ:118(71%) / 未回答:5(3%)	はい:43(38%) / いいえ:50(45%) / 未回答:19(17%)
来館人数	1人:43(26%) / 2人:71(43%) / 3人:34(20%) / 4人:9(5%) / 5人:0(0%) / 6人以上:1(1%) / 未回答:8(5%)	1人:29(26%) / 2人:47(42%) / 3人:21(19%) / 4人:10(9%) / 5人:3(3%) / 6人以上:0(0%) / 未回答:2(2%)
不随者 (複数回答可)	友人:50(41%) / 夫・妻:41(33%) / 子ども:19(15%) / 親:10(8%) / 恋人:4(3%) / 兄弟:2(2%) / 未回答:3(2%) ※n=123	友人:34(41%) / 夫・妻:29(24%) / 子ども:12(10%) / 親:9(7%) / 恋人:0(0%) / 兄弟:0(0%) / 未回答:5(4%) ※n=83
居住地	津市内:85(51%) / 三重県内:53(32%) / 三重県外:26(16%) / 未回答:2(1%)	津市内:56(50%) / 三重県内:29(26%) / 三重県外:24(21%) / 未回答:3(3%)
来館手段 (複数回答可)	車:121(73%) / 電車:22(13%) / バス:2(1%) / タクシー:1(1%) / 自転車バイク:13(8%) / 徒歩:10(6%)	車:86(59%) / 電車:23(21%) / バス:8(7%) / タクシー:2(2%) / 自転車バイク:20(18%) / 徒歩:7(6%)
来館頻度	はじめて:13(8%) / 年1回以下:40(24%) / 年2,3回:56(34%) / 年4回以上:54(33%) / 未回答:3(2%)	はじめて:17(15%) / 年1回以下:11(10%) / 年2,3回:24(21%) / 年4回以上:40(36%) / 未回答:20(33%)

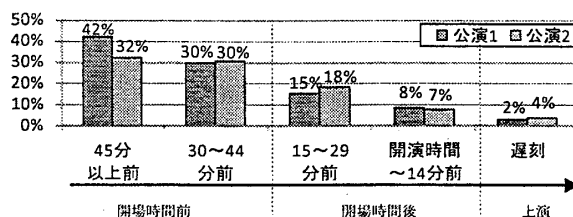


図2 来館時間

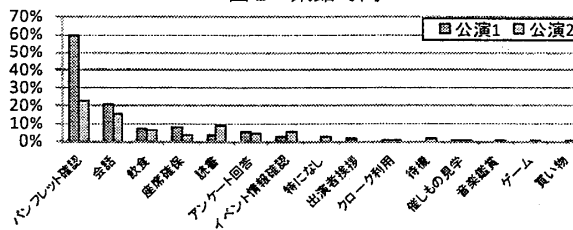


図3 公演前のCS内行為 (複数回答可)

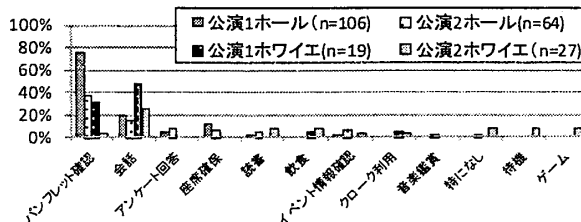


図4 公演前のホール・ホワイエ内行為 (複数回答可)

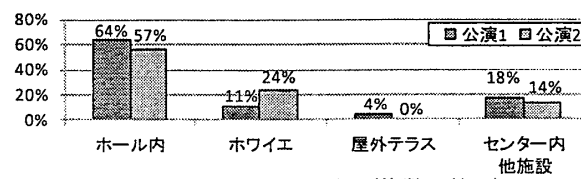


図5 公演前の場所選択 (複数回答可)

3-3. CSにおける満足度について

ホワイエの満足度について、図10に示す。

ホワイエの雰囲気に関して、両公演を通じて、「よい」「まあよい」と肯定的な回答が60%前後、「あまりよくない」という否定的な回答が2~3%であった。

ホワイエの広さに関して、公演1と公演2で差が出ている。その要因として、公演1では1・2階共に使用可能であったのに対し、公演2ではホワイエの1階のみが使用可能だったため、天井高の関係で、開放感が異なると考えられる。公演前後のホワイエの入り口付近の混み具合など、鑑賞者数が影響している可能性もある。マッピングで得られた公演2のCS内の行為は会話を中心であり(図11)、ホワイエの滞在位置分布はゾーンAのクロック受付とホール扉前の柱付近に集中している(図12)。ホワイエの開放感に大きく影響するであろう吹き抜けのゾーンBは、喫茶店が営業していなかったこともあり、滞在者が少数であった。吹き抜け部分に滞在者が少なく、屋外テラスまで視覚が連続し、かつガラス張りの明るい環境であったことが、広さに関して肯定的な評価を得た要因の1つと考えられる。

ソファ数に関しては、「やや不十分」「不十分」といった否定的な回答を、公演1で37%、公演2で24%得た。マッピングで記録したソファの利用について、図13に示す。ソファI(a-2)は休憩時間、公演後に利用率が高く、5分以内の短時間の利用が目立ち、利用者の入れ替えが頻繁である。公演後には、アンケート回答他多様な行為を記録した。ソファII(b-1)は、ソファIと比較し合計の利用時間は少なく、1人で利用、もしくは2人での会話による利用が多い。つまり、ソファIとソファIIでは利用目的や利用時間に違いが出ている。公演前は両ソファが利用可能、休憩時間と公演後はソファIIが利用可能である。そのようなソファの空き状況に関わらず、数が少ないとの回答を得ているため、短時間滞在と多様な行為に向くソファ数の検討をする必要がある。また、利用時間の差は、各ゾーンの滞在分布の偏りが影響している可能性がある。

屋外テラスに関して、雰囲気・広さの肯定的な回答が50%近く占めているにも関わらず、実際の滞在者が少なく、行為が喫煙に限定されていた。灰皿が設置された、屋外テラスの出入り口付近に喫煙者が集中しており、屋外テラスにおいても滞在位置分布の偏りを防ぐよう、灰皿・テーブルセットの配置の検討が求められる。

ホワイエにおける満足度と相関を得たものに、年齢と来館頻度があげられる。図14の公演1では、10代から50代につれて、雰囲気の満足度が低くなる傾向にある。

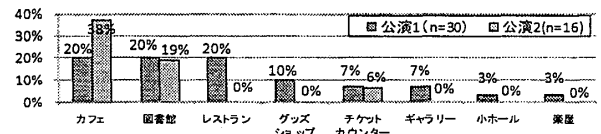


図6 公演前のセンター内の他施設の場所選択 (複数回答可)

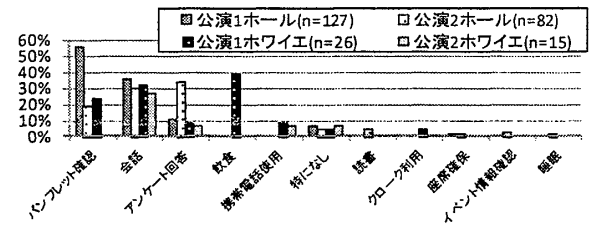


図7 休憩時間のホール・ホワイエ内行為 (複数回答可)

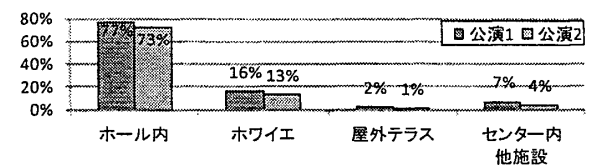


図8 休憩時間の場所選択 (複数回答可)

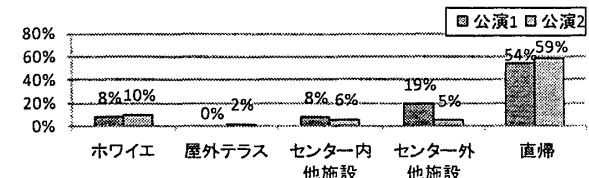


図9 公演後の場所選択 (複数回答可)

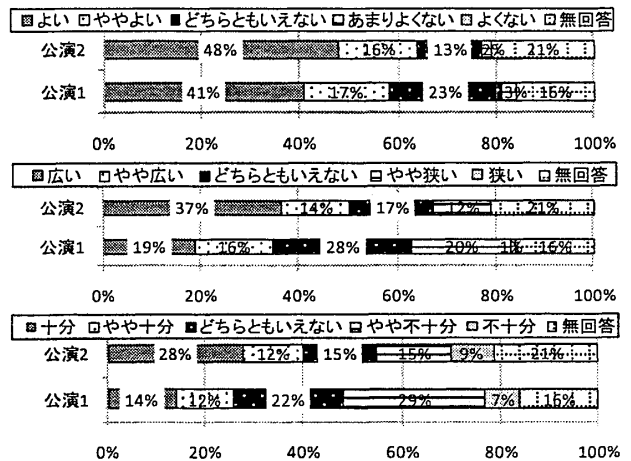


図10 ホワイエ満足度 (雰囲気、広さ、ソファ数)

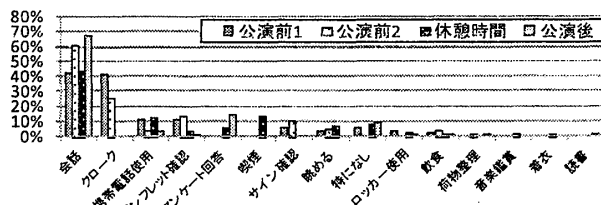


図11 公演2のCS内行為

図15の公演2では、10代から60代につれて、広さの満足度が低くなる傾向にある。年齢別の滞在位置の特徴として、滞在者の多いゾーンAでは、約50%が10、20代のグループであり、輪に広がり会話をすることがあげられる。こうした特徴が年齢別の満足度に関係している可能性もあるが、今回の調査だけでは要因について断定できない。図16の公演2では、来館頻度が高いにつれて、満足度が低くなっている。尚、鑑賞者の属性と過ごし方に関して、相関が得られなかった。

4. まとめ

- ①今回、鑑賞者の属性は、保護者や友人、大学関係者など、顔見知りの鑑賞者が多いケースであった。
- ②公演前と休憩時間の行為では、パンフレット確認が多く、着座姿勢が望まれ、ホール内の客席で滞在する鑑賞者が多い。また、読書を記録し、図書館の複合が公演時の過ごし方に与える影響について確認した。
- ③場所選択では、公演前、時間に余裕をもった鑑賞者は、センター内の他施設を利用できる環境にあり、公演1で18%、公演2で14%の利用があった。一方、公演後は直帰する鑑賞者の比率が高く、両公演を通じて16%しかセンター内にとどまらない。
- ④休憩時間にCS内では、飲食や通話などの行為のための滞在が目立ち、単に目的がなくホールからCSへ出た鑑賞者の比率は少ない。
- ⑤ホワイエの雰囲気、広さに関して、肯定的な意見が多い。理由として、ガラス面、吹き抜けなど建築的要素の充実が予測される。
- ⑥CSの家具数に関して、不十分との回答があり、滞在位置分布の偏りの是正が望まれる。
- ⑦属性によってCSにおける満足度は異なるため、公演内容によって、満足度に差が出るのが予測される。本研究により、特定の公演内容ではあるが、公演前後、休憩時間のCS利用実態、利用意識を明らかにできた。

謝辞
本研究の調査にご協力頂きました、三重県総合文化センターのスタッフの皆様、三重大学管弦楽団顧問の兼重直文氏をはじめ団員の皆様、鑑賞者の皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

注
注1) 本稿における、公立文化ホールは、国及び地方自治体によって設置され(PFIを導入している場合を含む)、舞台芸術の上演等に用いられる「ホール」を含む公の施設と定義する。
注2) 本稿における、コンスパースは、諸室以外のフリースペースと定義する。公演時、ホワイエや屋外テラス等がこれにあたる。

参考文献
1) 上原孝雄 熊井和雄他「劇場ホワイエにおける滞留行動と空間的要素との関係」学術講演梗概集 55,1163-1164,1980.09.
2) 青池佳子 本杉省三 小谷喬之助他「劇場・ホールにおける公演内容と観客サービス機能に関する調査研究(1~3)」学術講演梗概集 1994.07.
3) 浦部智義「公演時外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公立文化施設内のオープンスペースに関する研究—ホワイエを開放している施設における調査研究—」計画系論文集 75 (647), 57-66,2010.01
4) 実川俊之 船越徹 浦部智義他「劇場・ホールのアプローチ・ホワイエ空間に関する研究(その1~6)」学術講演梗概集 2000.07.~2003.07.
5) 瀬口哲夫 久野盛朗他「建築の空間構成に関する研究—その1文化会館、市民会館のホワイエの空間意識に関する研究—」学術講演梗概集 57,1525-1526,1982.08.
6) 三重県総合文化センターHP

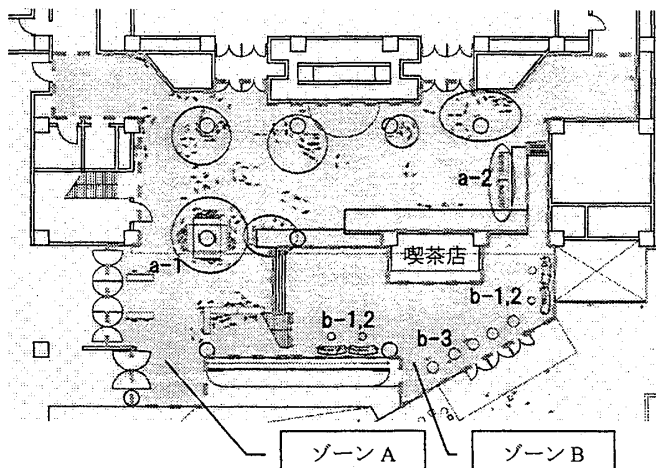


図12 公演2のホワイエ内滞在位置分布

	公演前I	公演前II	休憩時間	公演後		公演前I	公演前II	休憩時間	公演後
飲食	1	3		1	飲食				3
特になし			14	1	特になし	4	5	5	8
会話			10	3	会話			23	16
パンフレット確認			1		パンフレット確認	8			
携帯電話使用			14	3	携帯電話使用		5	5	
眺める			10		眺める				
アンケート回答				32	アンケート回答				2
荷物整理					音楽鑑賞				5
読書				3	合計時間(分)	12	5	43	24
着衣			1						
合計時間(分)	1	3	50	54					

図13 ソファの利用時間と行為(ソファI、ソファII)

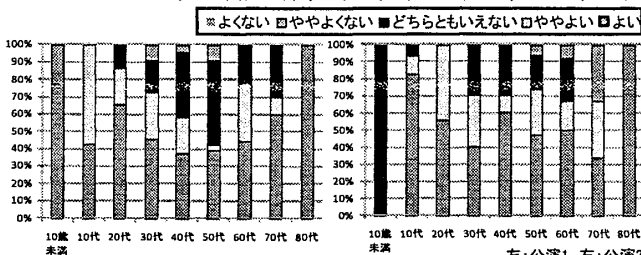


図14 年齢とホワイエ満足度(雰囲気)の相関

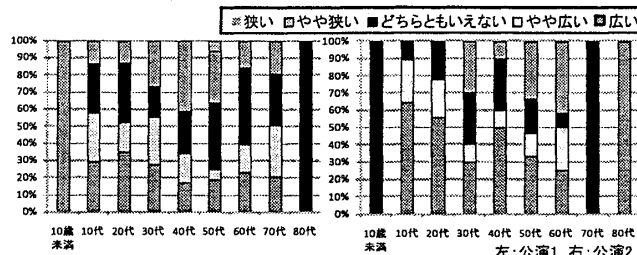


図15 年齢とホワイエ満足度(広さ)の相関

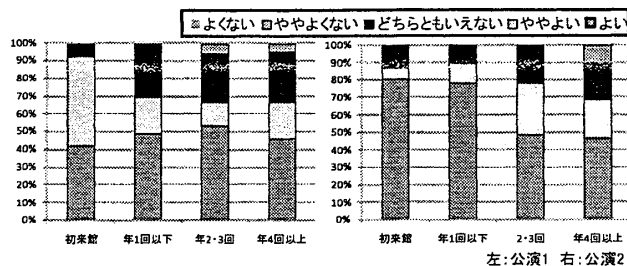


図16 来館頻度とホワイエ満足度(雰囲気)の相関